

光が降り注いで  
悪い心はなくなっちゃうって  
人類はよくなるって  
そんな都合のいい話なのかなって思ってた  
そしてわかったね  
心の持ち主がいなくなるってこと  
基準はとっても厳しいってこと  
もうすぐ降り注ぎ始めるってこと

僕が開発していた  
光を防げる傘が  
にわかには話題になっているよ  
今まで誰も相手にしてくれなかったから  
数本しか作れていないんだ

みんな自信がないんだね  
問い合わせが殺到しているよ  
家まできた人もいる  
落ち着いて  
ちょっと聞いて欲しい

お金をしまつて  
思い出を確かめて  
家族に優しくして  
差別をやめて  
負けた人を笑わないで  
誰も騙さないで  
自らを省みて  
そして  
君に与える傘はない

どんどんみんな消えていく  
皆勘違いしているみたいだけど  
僕は傘をささない  
新しいものを作りだす動機は  
好奇心が九割  
悪意が一割

大きく両手を広げて  
光を迎えるその前に  
傘を全て折っておこう  
嘘をついちゃった  
悪意は六割  
われながらなんて悪い心だ  
真実は時にすごく鋭い凶器だ  
傘なんてなかったと思ってくれよ

嘘をついちゃった  
新しい傘が完成して  
僕だけは助かるよ  
自分はやっぱりかわいかった  
全部見届けるから  
みんな安心してね

無責任

五十七号

小さい字で書いておけば  
きつときつと静かな感じ

真夜中のプールに傘をしきつめる白いサカナはいまも迷子  
浮島

無責任五十七号

責任者清水らくは

副責任者浮島

発行無責任Zone

発行日二〇一六年十一月一日

<http://border.poem.seesaa.net>